

あとがき

財団法人 武田計測先端知財団はその顕彰事業として『武田賞』の受賞をその目的のひとつに、株式会社アドバンテストの創始者武田郁夫氏によって2001年4月1日に設立された。その方針に従って、アントレプレナー精神をひとつの基準として2001年度、2002年度に武田賞の授賞を行ったが、その後、財政状況の悪化のため授賞を停止している。しかし、その間、ノミネーションおよび独自の調査と議論によって多くの方々の情報が蓄積されることとなった。そこで、賞を出す代わりにその情報の一部を出版することによって、武田賞の理念、その目指すところの思いを世の中に分かっていただけと考え、これまでの受賞者も含めてイノベーター列伝として出版することとした。

地球上には65億人の生活者がいる。当財団では彼らすべての富と豊かさ・幸せを増大させることを願い、それを意識し続けることが、科学や技術の本質的な進歩につながると考えている。この点から、本書で取り上げた超波及度のイノベーターは、多くの生活者にその効果を波及するという重要な役割を果たすと考えられる。

本書の筆頭を飾るおふたりはともに第一回の武田賞の受賞者である。“オープンなコンピュータ基本ソフトウェア開発モデルの提唱と実践”がその業績である。ストールマン氏は先にフリーなシステムソフトウェアを開発しGNUプロジェクトを開始した。その後トーバルズ氏は中核部分であるカーネル部分を開発してリナックスを完成させた。これによって多くの人々がフリーにリナックスを使うことが出来るようになった。13億の人口を擁する中国も主としてリナックスを使うということであり、全世界では多くの人々が使って超波及を示している。

なお、本財団の武田郁夫理事長もアントレプレナー・イノベーターのひとりである。戦後もない昭和29年にタケダ理研工業を設立された。最初に開発した製品は微少電流計であり、マイクロマイクロアンメータと名づけて発売された。当時、戦後の精密装置のない時代にあって好評を博し、大きい利益を上げた。その後、タケダ理研工業およびそれを引き継いだアドバンテストにとって最大の製品となったのは筆者らもお手伝いしたLSIテスターで、これまた武田氏の見通し、信念とねばりによるベンチャー精神がその成功と発展を導いたものである。

おわりに、本書にご登場いただいた8名の方々にはお忙しい内をご面接いただいたり、原稿を見ていただいたり、お世話になりましたことに厚く感謝申し上げます。また、武田理事長のご指導、原稿作成いただいた方々、出版社との連絡をしていただいた赤城三男専務理事ならびに読者の立場に立って原稿を精読し、訂正を提案し編集を行った荒川八重子氏に感謝いたします。

財団法人 武田計測先端知財団 常任理事
垂井 康夫